

文  
武  
之  
上  
略  
懷  
濟  
世  
之  
子  
規  
初  
舉  
孝  
廉

# 「落ち穂拾い記」 ⑦④

## 『王基断碑』

図② 有正書局刊「初出土拓王基断碑」

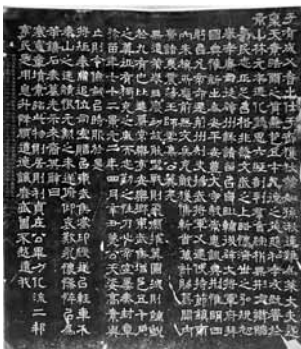


図① 旧題簽



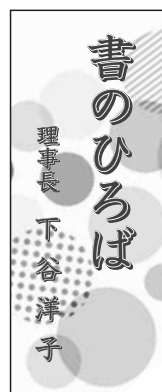
王基断碑の整拓本

図③ 家蔵拓本の鑑蔵印



2002年、北京の翰海オークションの古籍善本部門に、30数件の金石碑法帖拓本が出品された。その中に三国時代の刻石である「王基断碑」の旧拓本があり、なんとなく目に留まり原件の原状なども確認せず、日中を行き来している友人に購入を依頼した。ほぼ予想価格内で購入したように記憶している。しばらくして入手してから、普通の近拓本や書道博物館の旧拓本(二玄社の書跡名品叢刊所収)や有正書局の「初出土拓王基断碑」と比較検討した。漢時代の隷書、八分の流麗な流れの書である。清朝後期に出土し、出土時には、碑面には、まだ刻されていない文字が残されていたなどと言ひ伝えられる。刻されている文字は、破損もなく書かれたままの趣をそのまま残している。この時代の伝説の書人・鍾繇の楷書「宣示表」などは、法帖に伝えられているが、碑刻などに用いられる正規の儀礼的な権威ある隷書などは伝えられていない。流麗な漢隷八分の波磔や左右の払いをより見事に完成させた「王基断碑」書法は、まさに銘石の書(碑利用の書体)を善くしたと伝えられる鍾繇の書に近いのではなからうか。入手した帖右頁主図版)は、剪装本であり、「魏王基碑旧拓最初本」と書かれた隷書の旧題簽(図①)が付されており、先に挙げた資料と比較すると書跡名品叢刊本よりも古く、最も古い有正書局の「初出土拓王基断碑」本に近い。有正書局で刊行された「初出土拓王基断碑」の原本は、現在北京の国家博物館に所蔵されている(図②)。家蔵の旧拓本は、折帖に装丁され、巻頭の本文の始めの「子」の上に大きな「復盦鑑藏金石文字」の朱文印が捺されており、また巻末の一頁には、この拓の出土などの先人の記録を示し、これが初拓本であると記している。最後に「豊華」の二字が書かれ、その上に「豊華堂印」の朱文印が捺されている(図③)。これまで、碑文拓本の比較を主にし、鑑印や跋文にそれほど注意して来なかったが、近年ネット情報の豊富さと便利さを利用して調べると、旧蔵者である「復盦」「豊華堂」「豊華」の名を使用したのは、楊復(1866)約1945、字は見心)という人物であった。浙江蔵書樓(浙江図書館の前身)の監理(図書館長)を務め、自らも金石図書碑帖を好み多くを所蔵し、自己の蔵本に「復盦鑑藏金石文字」「豊華堂印」の鑑蔵印を捺したと記されている。現在では、購入不可能な善本を手に入れたのは、まさに偶然であろう。

伊藤滋(書齋名・木鶏室)



## 毎日書道会令和7年度 第3回理事会開催

昨年12月25日如水会館にて、令和7年度の第3回理事会が開催されました。主な議案

・令和8年度事業計画

第77回毎日書道展

各種展覧会、事業、出版の件

2027「現代の書 新春展」開催の件

第35回国際高校生選抜書展開催の件

・令和8年度（一財）毎日書道会の収支予算を承認する件

・第77回毎日展の主要役員人事の件

主要役員（既載）

運営委員（本院関係）

近代詩文書部 飯沼恵風

大字書部 前田龍雲

前衛書部 山口仙草

・第77回毎日書道展での資格（昇格）の承認（本院関係）

参与会員へ

漢字部 最首翠風

審査会員へ

前衛書部 高原梨秀

会員へ

漢字部 紺野遊山、山崎暁月

かな部 木村関泉

かな部

## 日本書道美術院 第80回展開催

浜詩文書部 大友四峰  
大字書部 衣田翠草、清遠端  
前衛書部 安藤楊風、中塩朱華  
他会友への昇格は省略

昨年は戦後80年でしたが、このたび日本書道美術院の日書展が80回を迎え、1月4～10日東京都美術館で第80回展を開催しました。日本書道美術院は、戦後いち早く「再建総合書道展」として展覧会を開催しました。

特別展示としては歴代の『サンスター国際賞』（平成21年より）の作品が17点陳列されました。5日にはホテルオークラ東京プレスステージタワーにて祝賀会が催され、来賓66名と会員による40余人の、書道界では久しぶりの大祝宴となりました。

## 新春を飾る書展あれこれ

1月4～9日、恒例の毎日新聞社・毎日書道会主催「現代の書 セイコーハウスホール展」が華やかに開催されました。会期中セントラル会場では席上揮毫やギャラリートーク、解説会なども開かれ、4日には第76回毎日書道展で文部科学大臣賞を受賞された山中翠谷先生と、同展で実行委員長を務めた下谷が一時間ほどギャラリートークを行いました。

## 第79回書道芸術院展搬入状況

| 部門     | 審査候補 | 前回展 | 審査会員 | 前回展 |
|--------|------|-----|------|-----|
| 漢字部    | 212  | 210 | 165  | 171 |
| かな部    | 40   | 36  | 55   | 55  |
| 現代詩文書部 | 204  | 204 | 151  | 157 |
| 篆刻・刻字部 | 9    | 10  | 14   | 14  |
| 前衛書部   | 128  | 130 | 116  | 118 |
| 合計     | 593  | 590 | 501  | 515 |
| 増減     | 3    |     | △14  |     |

関東（本院関係）では真下京子先生が高崎高島屋にて個展を、白扇会もアトサロン毎日で役員及び昨年の受賞者による選抜展が開催されました。大阪でも、これも恒例の毎日現代書関西代表作家展があべのハルカス近鉄本店で開催され、本院からも多数の先生方の作品で賑わいました。

## 第79回書道芸術院展 審査会員・同候補作品搬入

一般公募・無鑑査の作品は、昨年12月に鑑別審査を終えましたが、1月19日には審査会員・同候補の書類搬入が行われました。作品は、同月27日表装された一般公募・無鑑査の作品と一緒に東京都美術館に搬入されました。

候補以上の作品は、28・29日に特別賞選考委員（公財）理事・監事によって審査が行われました。

## （速報）

第79回展春華賞 前衛 岩上郁子

同大賞 現詩 須藤雪蓮

同準大賞

（漢字）金延憲市・本田賀軒

（かな）逸見玲子

（現詩）加藤祐子

（前衛）相内沙莉

同 白雪紅梅賞

（漢字）猪原美風・栗原華泉・齋藤箏

節・佐茂明祥、（現詩）上野千瑋・高橋真弓・中島俊恵・吉田紫風、（前

衛）蛭川友香里・深松慶子

同 俊英賞

（漢字）阿瀧浜里佳・阿部雅悠・大槻

明苗・小木曾泰香・児島純奈・積田

恵雲・津留煌水・中嶋佐緒里・服部

照琴・古川彩遥・三浦小樹・山口鈴

風・山下船崖・山中久美子・吉信菊

水、（かな）五十嵐るり子・遠藤紅芝・

大崎友里絵、（現詩）吾妻三鳳・阿部

玲雅・井口静峰・石澤青仙・古城青

花・鷺山美梢・佐藤千秋・樽澤裕子・

中村理佐・西岡真・人見華泉・藤

野洋子・舟寶恵美・圓尾聰春、（篆

刻刻字）宮坂松彦、（前衛）相澤敦子・

秋本福仙・石井和子・遠藤和香・北

村早苗・高橋奎媛・田名部茜香・藤

崎松月・山崎恵・和田敬子

## 漢字書基礎基本講座 (21)

種谷萬城

### ①泰山刻石拓本

「金石刻因明白」



### ②泰山刻石

臨書「金石刻因」



### ③泰山刻石

基本点画



### ④泰山刻石

倣書「天馬行空」



⑤泰山山頂の泰山刻石  
(複製)



⑥岱廟に現存する泰山刻石(残石)

篆書1 泰山刻石  
秦始皇帝は、強力な軍事力を駆使して紀元前221年に天下を統一し、中央集権国家を確立した。始皇帝の側近として活躍したのが、法律の整備による統治を説いた荀子の門下生に李斯で、始皇帝は李斯に命じて様々な改革を行った。戦国時代、各国様々であった度量衡・貨幣などの諸制度を統一し、さらには文字の統一も行った。李斯は戦国時代の秦國で用いられていた「大篆」(石鼓文に見られる書体)を基に新しい國家の標準書体・「小篆」を創り上げた。  
始皇帝は紀元前219年に東方各地を巡幸し、泰山にて「封禪」の祭祀を行い、泰山の山頂に石碑を立て、自己の功績を讃える文章を刻ませた。これが泰山刻石で、李斯の書とされる。本来は222字であった泰山刻石の原石は、岱廟にわずかな数字のみの残石が現存するが、「一六五字本」(台東区立書道博物館所蔵)と「五十三字本」(三井文庫所蔵)の剪装本の拓本が日本に伝わる。摩滅の多い拓本から、本来の姿を求めると、線は一定の太さで、横画は水平、縦画は垂直、空間は等分割、縦長で、シンメトリ。法則的で、揺るぎない構造を持つ小篆には、始皇帝の限りない威厳を文字の姿に託そうとした李斯の意図が窺える。

※ユーチューブ「筆のサロン」に臨書と倣書の関連動画を配信しました。是非参考にして下さい。  
QRコードでアクセスできます。



筆のサロン  
QRコード

## 基礎基本講座

## ペン字基礎基本講座 (1)

川村美泉

今回より8回にわたって、ペン字の基礎・基本についてお話をさせていただきます。十分にご承知のこともあるかと思いますが、復習も兼ねまして、ともにペン字について考えてまいりましょう。よろしくお願いたします。

さて、スマホやパソコンの急速な進歩により、現代人は手で文字を書くことが少なくなってきました。私たちは書を学んでいる身ですので、手紙やはがき、年賀状などペンや筆を使いますが、今年のお正月にいただいた年賀状は書仲間以外ほとんどが印刷でした。それでも横に数行、手書きの文字が添えられているのを見ると、途端に相手の方の顔が浮かび、「ああ、お元気そうで何より」と心を通わせることができました。スマホ・パソコンは本当に便利なツールで無くてはならないものですが、あえて手書き文字にこだわって、次世代の子どもたちにも手書きの良さを伝えていきたいと思っています。

先日、NHKの「クローズアップ現代」という番組で、手で文字を書くことのメリット・重要性が実験に裏付けられた結果として放映されていました。海外のどこかの国では子供たちの学力を上げるために手書き文字を推奨しているようです。人の温もりを伝える、心を伝えるのが手書き文字です。

ところで、ペン字はどうすれば上達するのか、この講座ではそのことについて、お話を進めてまいります。「毎日、書く」。筆もペンも同じです。毎日、少しずつ、コツコツです。繰り返し練習することが一番大切です。上達の近道だと考えます。一度にたくさんではなく、少しずつです。

毎月、ペン字規定の参考手本が出ています。先生方のお人柄が感じられる文字で、書と同じくさまざまな美しさがあります。厳しさのあるもの、優しさのあるもの、おおらかさのあるもの等、「書は人なり」。それらのお手本を参考にされながら、ペンの運筆にリズムが生まれるまで練習し、気持ちを書けて書いていきましょう。

### ペンの選び方

ボールペンを使いたい方もいらっしゃると思いますが、ぜひ万年筆に挑戦してみてください。万年筆には弾力があり、微妙な圧の調節で濃淡が出ます。小筆に似ているところがあって、連綿や繊細な線などを美しく表現できるはずです。

なお、漢字やひらがなを書く場合は、日本製のものが適していると思います。太字・中字・細字・極細など、ご自分の好きなものを探すのも楽しみの一つではないでしょうか。

※「篆刻・刻字基礎基本講座」は後日、再開する予定です。〈編集部〉

# 書道芸術院

## 令和の群像 (2026)



岡 紅水 (大阪)

### 「師はひとり」

私が関西書道協会とご縁があったのは昭和53年のこと。砂本先生の直門となり、ご自宅にお伺いした。私が自転車を留めると、毎回のよう「ザン君」が出向えてくれ、

「千賀」ちゃんが送ってくれた。猫も私の中では人。

先生の自宅は風水的でくぐり戸をあけると細い石畳が中庭へ。洋室もあり樹木も花も。広くて、大好きな私の場所であった。また、お稽古では一本の筆の線から伝えられる表現力に、そして、どこまでも伸び



第64回白扇会展出品作品

岡 紅水書

てゆく線に酔った。目をみはった。

突然ガーンと来た。先生の体調が……。私が書を辞めようと決心した時、砂本先生のもとで大輪の花を咲かせてと言って下さった方も、先生も、遠くへ逝かれてしまった。令和7年になり夢にも思わない令和の群像へ……。うれしくてうれしくて。作品が必要とのこと。事情があり、しばらくお休みしていた白扇会展に久しぶりに出品した作品を提出した。

毎年5月は砂本先生が四国の安芸へ行くのを楽しみにされていた季節である。その5月が近づいた頃、強烈な先生の夢を。一、現代詩文書。二、かな。三、はじめての先生の声。着物の柄と、上がり框の広い座敷とお参りの人々。表に反物が3枚風にゆれて。四、小学校6年生の鉛筆作品。「しっかりね」。私は書けましたと言った直後お稽古場も消えて先生も消え、私もどこにいるのか分からなかった。

夢か、先生との交流。夢の中ではただ一人の師である。なぜ私の所に。そうや先生はきっと私のことを気にかけてくれてはるねんやわ。残りの日々を大切に、作品に挑戦したい。

(現在、関西書道協会の会長は山崎掃雪さん。砂本先生とお別れして8年目の令和8年3月に浜寺公園駅舎ギャラリーにて協会展を開催予定)

# 新 鋭 礼 讃



近代詩文書部  
審査会員

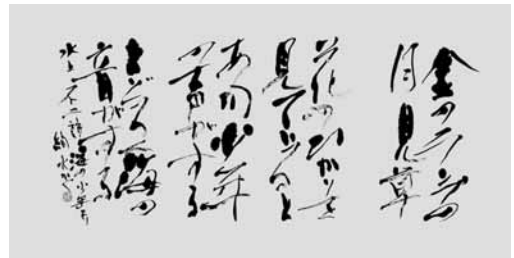
茂木 絢水  
(宮城県)

所属 宗苑社  
師名 熊谷宗苑

下谷洋子

参加している書展

毎日書道展  
河北書道展



「水上不二の詩より」

金のランプの月見草花のひかりを見ているとあの少年の声がする とどろく海の音がする

## 作品自評

風光明媚な地元・気仙沼市出身の詩人、水上不二の詩「海の少年」の一節を書きました。書においては、特定の分野だけ学ぶのではなく、様々な書体・書き方を身につけて、作品に生かすことを心掛けています。今回は字の中の疎密や行の動きを意識して作品にしました。

また、作品の中で墨量の変化がでるよう、墨を薄め、濃淡の差をつけることに気を付けました。詩文書を書く際には、羊毛の長鋒筆の予測外の動きも楽しみながら作品を書いています。横への動きのつけ方や作品構成全体の凝縮と拡散の表現が今後の課題です。

書活動における課題  
今年の7月に子が生まれ、現在は仕事

## 作品自評

かな作品を作るにあたり、普段よりどれだけ自分自身の気持ちに乗るかどうかを考えています。歌人が何を考えて歌を書いたのか、自分が今どんなことを考えているかを同一化することで、どんな作品にするか、その雰囲気意識しています。この作品は自分自身の環境の変化の中で戸惑う気持ちとその中でも少しずつでも希望を見出している様子を表現として出したいと思いました。そのため、創作するにあたり、歌選びから悩むことが多かったのです。また作品作りにあたっては墨の濃淡・線の強弱を意識しました。

## 書活動における課題

現在看護師として、働きながら仕事、大学院(看護)、書活動の三足の草鞋を履きながらも活動できているのは切磋琢磨できる妹の存在と、ゆっくりながらも見守ってくださる松村先生のおかげと思っています。今後ゆっくりではありますが、その中で自己研鑽に励みたいと思います。今、伝えたいこと

書道をはじめてはや20年近くになりました。飽き性のわたしはこんなに長く続けているのも、松村先生をはじめとする書泉会の方々のおかげだと思っています。書道の楽しさをこれからも感じながら作品作りに励みたいです。



かな部

審査会員候補

大崎 香織  
(群馬県)

所属 書泉会

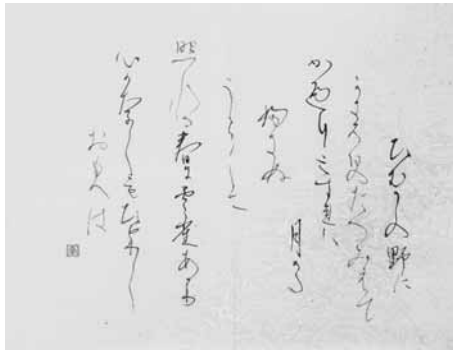
(松村会)

師名 下谷洋子

松村くに子

参加している書展

毎日書道展、書泉  
会展、群馬県展



「ひむがしの」

ひむがしの野に  
うさぎの足音  
おひるは

# 『書道芸術』クロニクル(3) 第13号

## 書道芸術

13

書道芸術

く旅だったようだ。広東料理店で出たライチの味に心ひかれた、とある。

②は2月の芸術院展の出品者に向けての内容。各科の審査員が心得や注意事項を詳述。③では王鐸の半切臨書と方形の詩文書を取り上げられ、珍しく高い評価を得ている。

### 【昭和33年の「書道芸術」】

発行日 昭和33年(1958)12月1日  
編集発行人・印刷・総頁・価格は変更なし  
口絵写真 居延木簡・大唐中興頌・興風集・三十帖冊子  
手本揮毫 宮崎重美・金子魯空・恩地春洋・由田白水  
競書成績 規定部：217名(優級10級) 随意部：117名(特級10級)  
研究部：特選5名・秀作10名 入選11名・違反4名  
篆刻部：秀作1名  
競書短評 規定部47名(写真版は14名) 随意部35名(写真版は10名)  
記事 ①新しい中国を旅して(三)  
②第12回書道芸術院に際して  
③この作品をとりあげる

### 【解説】(文中敬称略)

記事の①は香川峰雲による中国紀行の3回目。日本書道界の代表の一人として招待されたもの。香港で靴磨きの少年たちに囲まれたり、国境の羅湖で英国と中国の武装兵士を間近に見たり、緊張の統

第2号から13号まで、手探りで発行している様子がうかがえる。競書は4部門で落ち着いたようだが、随意部は第3号の募集から用紙が半紙のみとなり、第7号の募集から級位を設ける形に変更されている。研究科は内容・用紙ともに自由だが、創刊時ではなく、第2号からの新規募集である。「半紙は除く」「課題との重複は不可」と注記されていることから、違反作が絶えなかったのだろう。篆刻部は研究部から独立して、第6号から新規の募集が開始された。結果の報告については、第5号までは、写真版になった作品のみ100字あまりの短評がついた。第7号からは字数が25字程度に減り、その代わりに写真版にならなかった作品の一部にも短評が載るようになった(第6号は、両者折衷の形)。

創刊号から競書には準会員制度があり、本誌を購読しなくても、1枚20円の準会員券を貼れば出品が可能であった。家族や学校単位での参加を増やすための措置だったと考えられる。

創刊号からの連載講座のうち、篆刻初歩講座は第6回で中断、古典の研究も同様だが、こちらは時折、競書課題(臨書)の解説文に振り替える形になったようだ。号によっては、論文(和井田要「前衛書私観」・種合扇舟「古典の臨書態度」など)、

### ●競書課題参考手本2点



恩地 春洋

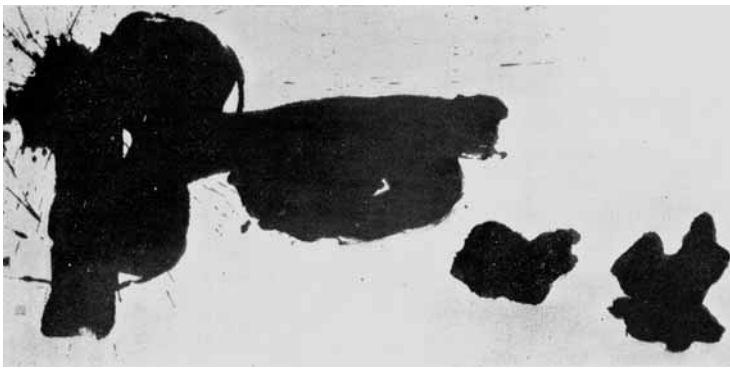


金子 魯空

座談会(関西編集部「古人の書法をさぐる」)が掲載された。毎日展などの公募展はその都度、特集が組まれている。

昭和34年を前にして、編集の土台も固まってきたのであった。

### ●毎日前衛書展審査員作品より



山本 聿水

# 現代の書 新春展

今いきづく墨の華

セイコーハウス銀座ホール展 2026年1月4日(日)～9日(金)

セントラル会場 100人展 2026年1月4日(日)～9日(金)

主催・毎日新聞社・(一財)毎日書道会

## 〈セイコーハウス銀座ホール展〉

辻元大雲

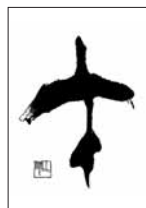


「冬晴や」片山由美子

75×164cm

千支文字

冬晴れや  
祈りの聲の  
満つる國



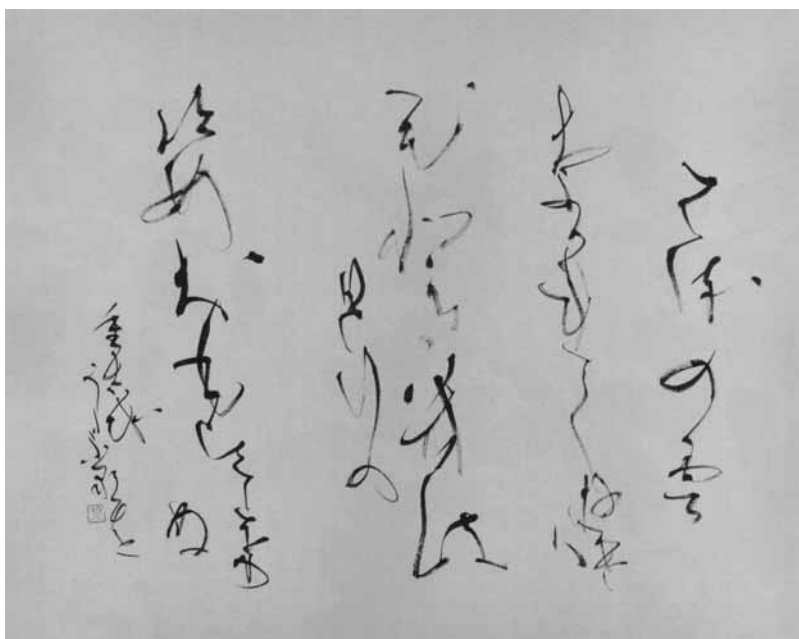
干支文字



はるの雲ながれてゆけば  
ひとときはひとりの姿  
おもひてをりぬ

「ひとりの姿」江田浩司『重吉』

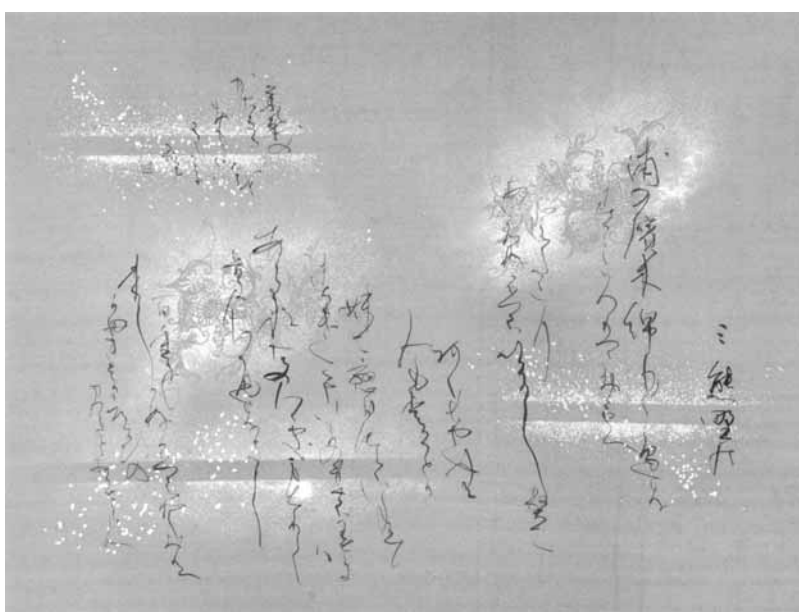
下谷 洋子



73×90cm

み熊野の浦の浜木綿百重なす心は思へど直に逢はぬかも  
古にありけむ人も我がごとか妹に恋ひつつ寝ねかてずけむ  
今のみわぎにはあらず古の人をまさりて音にさへ泣きし  
百重にも来しかぬかもと思へかも君が使ひの見れど飽かざらむ

下谷 洋子



「百重(ももへ)」柿本人麻呂『万葉集』

39×51cm

千支文字



藍と茜を愛でる  
早暁の天

小竹石雲



「早暁の天」自作

105×132cm

## 〈セントラル会場100人展〉

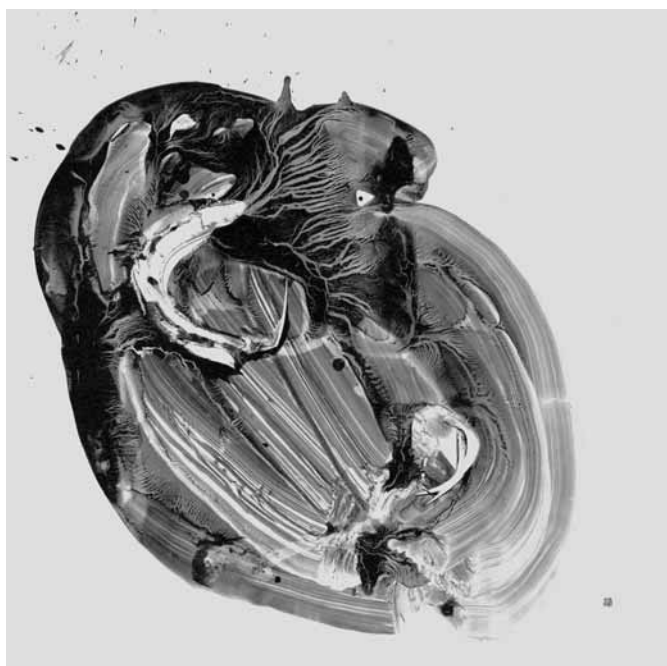
(陳列順)

千支文字



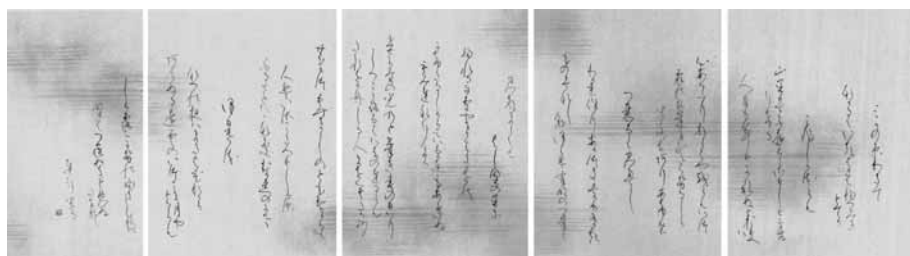
「こころの結晶」

真下京子



105×105cm

京  
絹  
子



「みかの原」『百人一首』

49×27cm／49×36cm×4

千支文字



みかの原わきて  
流るいづみ川  
いつみきとてか  
恋しかるらむ  
(以下4首略)

千支文字



「順天」



川  
島  
舟  
錦

139×70cm

「念」



小  
林  
琴  
水

121×90cm

千支文字



「春風」



半田藤扇

177×57cm

干支文字



「李白詩四句」



名越蒼竹

173×53cm

春風卷入碧雲去 千門萬戶皆春聲  
是時君王在錦京 五雲垂暉耀紫清

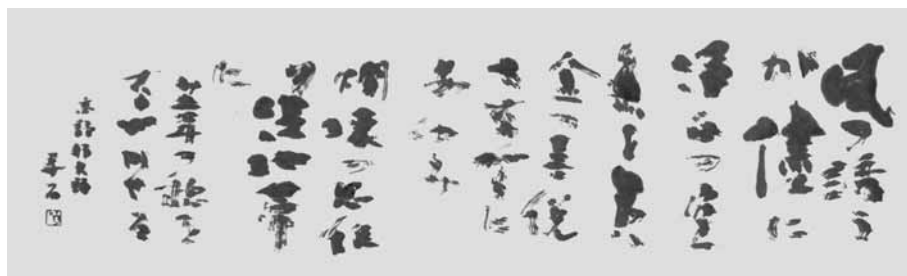
干支文字



干支文字



畑中弄石



「風」高野邦夫

53×176cm

風の誘うが儘に浄白の空無を黄金の喜悦さながらにあゆみ  
爛壊の思惟の湿地帯に葦の穂をなびかせる

蘇慈墓誌銘（隋 603年）②

漢字研究部臨書課題

Ⅱ（半紙普通・縦使用）左記掲載部分より何文字臨書してもよい。

特別研究部臨書課題

Ⅱ（A 本作の部 毎日展覧会員・会費サイズ以内、2×6尺、全紙も可）  
B 小品の部 半切以下半切以内、全紙以内も可（A・B 縦横自由）  
当該古典の左記掲載部分以外も可。

〈解説〉隋代の墓誌銘の書道史的 위치は、北朝の書が南朝の書に同化して行きついたひとつの到達点とされる。そして、初唐の三大家への橋渡しの役目も担っている。したがって、楷書の完成の直前の姿と捉えることができる。欧陽詢の楷書との共通点・相違点を意識すると学習が深まるだろう。ここではこの墓誌銘の用筆について、二玄社・中国法書ガイ

ド 26を参考に次に示しておく。

- ・横画は「三節法」を基本にして、素直に、そしてリズムカルに引く。
- ・縦画は、ひじ全体を縦方向に移動させる。止めや小さく左へはねる収筆を指先や手首だけで書こうとしてはうまくいかない。
- ・速度は、粗雑にならない程度にややスピードをつける。

（編集部）



※掲載図版原寸

公諱慈。字孝慈。其先扶風人也。九曲靈長。河流出積石之下。十城側厚。玉英產崑崙之上。故地稱陸海之興。山謂近天。

※落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇臨（押印のみも可）

なま

いふちうらやま  
うむうらやま  
うむうらやま  
うむうらやま  
うむうらやま

うむうらやま

うむうらやま  
うむうらやま  
うむうらやま  
うむうらやま  
うむうらやま

曼殊院蔵

※掲載図版75%縮小

古筆鑑賞

263

かな研究部臨書課題

特別研究部臨書課題

(半紙普通判(料紙可)・縦長に使用)別紙を裁断して貼付も可。半懐紙は半紙サイズに切って使用のこと。左記の古筆の掲載部分より歌一首以上を書く。(全臨も可)  
A. 大作の部 毎日展審査会員・会員サイズ以内、2×6尺・全紙も可  
B. 小品の部 半切<sup>1/3</sup>以上、半切以内(縦横自由) へいすれも左記の掲載以外も可。V

曼殊院本古今集(伝藤原行成筆) ②

〈解説〉「曼殊院本」の特徴の第一は、本文冒頭や作者名の1文字目が太い線で書かれているという点である。原本(巻物である)を広げてみた場合、墨継ぎの部分がアクセントになる、ということである。第二の特徴は、細い線が弱くならず、強くしなやかに書かれていることである。とりわけ注意したいのは、細い線の中に、微妙に太い細いの変化がある点である。また、一見、直線に見えても、よく見るとほんの少し方向を変えていることが多い。こうした視点で連綿線を観察すれば、例えば1首目2行目上部の「ら」から「む」の連綿も単純な直線ではないことが見て取れるだろう。なお、2首目の作者名は「みふる」と読める。諸本、「みはる」とするものが多いが、変体がなの「不」と解釈すべきところである。(編集部)

〈よみ〉

右大臣

いろなしとひとやみる

らむかしよりふ

かきこころにそめて

しものを

みふるのさだのり

かしはぎのもりの

わたりをうちすぎて

みかさのやまにわれは

きにけり

※落款を必ず入れる。署名、もしくは

〇〇臨(押印のみも可)

※古筆は原寸(以上も可)で臨書しましょう。

※55ページに原寸大の図版を掲載しました。

◎半紙は縦長に使用します。

漢字規定 初段以上 【3月15日締めきり】 用紙 半紙普通判

千葉蒼玄選書

## 習い方解説 (2)

千葉蒼玄

臨池之志 (孫過庭「書譜」)  
(臨池の志)

筆を洗う池が、いつも墨で真っ黒になっていたという後漢の草書の名人、張芝の故事。

近頃ではスマホや携帯の普及で、本を読む機会が少なくなっている。しかし、昔は知識を得るために本が重要な存在だった。書はなおさら碑法帖に親しむことの大切さを感じさせてくれる。

草書の面白さは、字形を自由に变化させられるところにある。ただし、基本的な形を知らないとなかなか読めなくなったり、誤字になったりするところがあるので注意が必要だ。その基本を学ぶためには、『十七帖』や『書譜』が最適だろう。

『書譜』は臨書を通じて字形を学ぶことも重要だが、その文章の内容も非常に興味深いものがある。

参考手本は『書譜』の一節を行書で試みた。自然なじみは作品のアクセントになると思う。



臨池之志

よみ (臨池の志)

書体Ⅱ自由

漢字規定 秀級以下 【3月15日締めきり】 用紙 半紙普通判

大平 邑峰 選書

## 習い方解説 (5)

大平 邑峰

君子道長

(君子の道は長ず)

(易经)

有徳の人の道のりは長いが、最終的には理想の実現や成功に到達するものだ。

今月の課題は、北魏の鄭道昭を基本に臨みました。若い頃、中国の山東省を訪ね、鄭碑を巡った時の感激は忘れられません。雄大な自然の中に佇む諸碑は、長い時と風雪に耐えながらも凛とした姿で私達を迎えてくれました。その書風は、同時代の力強い方筆とは趣きを異にしますが、外形、骨格、線のねばり強さなど共通する部分を感じます。風雪など自然の手が加わった書と言えるのかもしれない。

羊毛筆(中鋒)、濃墨でゆっくり長い呼吸で運筆しました。長鋒を使ったり、硬い毛質の筆を使ったりしてみても楽しいと思います。

君子道長

邑峰書

君子道長

よみ (君子の道は長ず)

書体Ⅱ楷書

かな規定 初段以上 【3月15日締めきり】 用紙 半紙普通判（料紙可）

松村くに子選書

## 習い方解説 (2)

松村 くに子

夕ゆふざくらけふも昔むかしに成なりに  
けり (小林一茶)

夕刻がせまる中、桜が咲いている。  
まもなく一日が暮れようとしている  
がすでに遠い昔のようでもある。

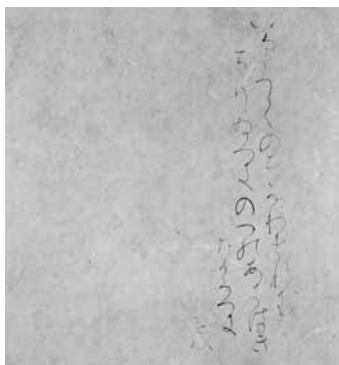
2行目、縦長の文字を入れようと  
「し」を使いましたが、「に」を「耳」  
の変体がなで表現しても良いかと思  
います。

本文を紙面の右側に寄せる手法は、  
本誌の古筆鑑賞に出てきた升色紙に  
あります。その箇所を添付しました。  
創作時、散らし方に苦慮した時は、  
その他、寸松庵・元永本古今集など  
の古筆も参考にするとういでしょう。  
落款は余白を生かすよう工夫が必  
要です。墨継ぎは「けり」です。

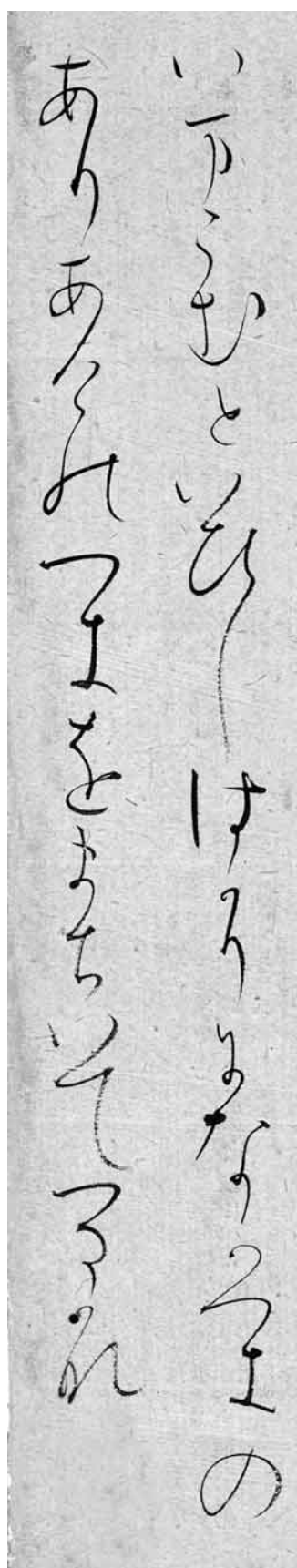
よみ方 夕ざく(久)らけ(介)ふも昔(むかし)に(二)成(那)りにけ(希)り(里)

創作

\*料紙は半紙版(33.0×24.5cm)を使用しましょう。半懷紙は上記のサイズに切って下さい。



かな規定 秀級以下 【3月15日締めきり】 用紙 半紙タテ1/2 (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)  
掲載写真の和歌を臨書する。部分臨書も可。〈注〉署名は「〇〇臨」。粘葉本和漢朗詠集(掲載写真拡大120%)



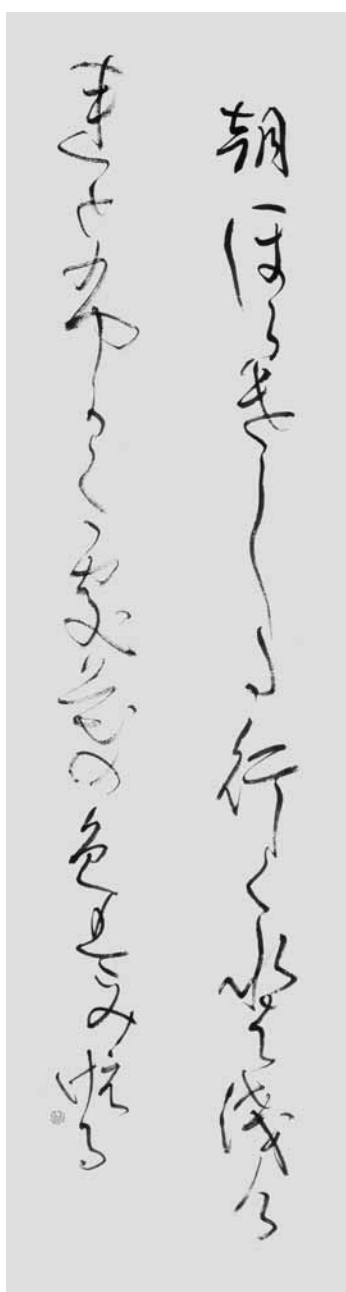
よみ方 いま<sup>万</sup>こむといひしば<sup>可</sup>かりにな<sup>可</sup>がつ<sup>支</sup>の  
あり<sup>か</sup>あけの<sup>能</sup>つきをまちいで<sup>可</sup>つる<sup>支</sup>かな

#### 歌意

「これから訪ねよう」というあなたの言葉を信じたために、私は長い秋の夜をまんじりと  
もせずにあなたの来訪を待ち続けましたが、結局、出会えたのは夜明けの月でしたよ。

かな条幅規定 【3月15日締めきり】 用紙 小画仙紙半切 (料紙可)

勝山初美選書



よみ方 朝<sup>あさ</sup>ぼらけ(遣)した(多)行く(久)水は(者)浅<sup>あさ</sup>け(介)れ(連)ど  
深(布可)く(久)ぞ(處)花の色は(盤)みえける

創作

※タテ形式に限る

## 習い方解説 (2)

勝山初美

朝<sup>あさ</sup>ぼらけた行く<sup>ゆ</sup>水は浅<sup>あさ</sup>けれ  
ど深<sup>ふか</sup>くぞ花<sup>はな</sup>の色はみえける<sup>いろ</sup>

(紀貫之「後撰集」)

「夜明け方、花の下を流れている川の水は浅いけれども、そこに映る桜の花の色はとりわけ濃く見えることだ」の意。

今月の歌の、冒頭と墨継ぎ箇所(色)は漢字です。文字の大きさと墨量に注意し、2行目上部の濁筆部分は1行目との調和を考慮して、筆圧や速度で線に変化が生まれるよう運筆しましょう。

漢字条幅規定 初段以上 【3月15日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

稲垣小燕 選書

## 習い方解説 (2)

稲垣小燕



山家富貴銀千樹 漁夫風流玉一蓑 (三籟集)

(山家の富貴銀千樹 漁夫の風流玉一蓑)

書体Ⅱ自由

「山も川も草も木も一面の雪におおわれ笠も蓑も人もその中に溶けこんで、天地万物ごとごとく白銀一色に塗りつぶされている。」  
そういう美しい雪景色を詠じたものです。詩意から凜然とした雰囲気を感じられます。整然とした緊張感を表現したいと思い、単体表現にし、線の太細でリズム感のある作としました。筆は純山馬の中鋒を使用。

※タテ形式に限る

漢字条幅規定 秀級以下 【3月15日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

田村鄭雲 選書

## 習い方解説 (2)

田村鄭雲



春回雨點溪聲裏 人醉梅花竹影中 (楊万里)

(春は回る雨点溪声の裏 人は酔う梅花竹影の中)

書体Ⅱ自由

羊毛の長鋒を用い、弾力ある明るい表現をねらいました。生命感のある作品を作るためには、墨をしっかりと入れ墨量の変化で立体的な感触を生む技法を会得することが大切です。長鋒は変化のあるリズムカルな動きを生みますが、穂先が十分紙面にくい込むようにゆっくり転折することが大切です。  
墨の濃さや粘り、紙質等も影響します。

悲惨な戦争体験の中、最愛の弟を亡くした経験が根底にあつて『アンパンマン』が生まれたようです。やなせたかしさんが漫画家として広く知られたのは69歳の時だったそうです。 舟錦書

書体＝自由

◇用紙 ハガキ大(14.8×10 cm)の白紙を使用  
◇黒インクのペンを使用(ボールペン・フェルトペン可)

【注意】

用紙の大きさにばらつきが見られます。

用紙サイズ(ハガキ大14.8×10 cm)を守って下さい。

習い方解説 (2)

川島舟錦

NHK朝の連続ドラマ「あんぱん」で使われていた三越百貨店の包装紙ロゴはやなせたかしさんが関わっていること、脚本家・中園ミホさんは、やなせたかしさんと文通していたこと、「あんぱん」の脚本を手掛けることとなった奇遇、など初めて知ることばかりでテレビに釘づけでした。

放送以前は、高知県香北町にアンパンマンミュージアム第1号ができたこと、郷里でアンパンマンのキャラクターに囲まれて安らかに眠っていることを知っているだけでした。

余分な力を抜き、リズムや気脈を大切に書いてみましょう。漢字、大字、かな……すべて作品作りと同じではないかと感じているところです。

悲惨な戦争体験の中、最愛の弟を亡くした経験が根底にあつて『アンパンマン』が生まれたようです。やなせたかしさんが漫画家として広く知られたのは69歳の時だったそうです。

〇〇書

私の転勤に際しましては、十分にご挨拶も申し上げられず、心残りとなりました。在阪中はひとかたならぬご厚情の数々をいただき、良い思い出をつくることができました。

本当にありがとうございました。

児玉 韜光

私の転勤に際しましては、十分にご挨拶／も申し上げられず、心残りとなりました。／在阪中はひとかたならぬご厚情の数々／をいただき、良い思い出をつくること／が／できました。／本当にありがとうございました。／氏名

書体＝自由

(掲載手本85%に縮小)

- ◇小筆・筆ペン・サインペンなどを使用 署名は各自の氏名(号)を
- ◇用紙は普通版半紙横 $\frac{1}{2}$ (24.5×16.5cm) B5版コピー用紙(26.0×18.1cm)も可
- ◇所定の出品券を作品の右下に貼る

ペン字部 師範 松山 峰生

独自の構成で印象に残る作。字形線質、美しい流れの行書体が温雅で安定し余白が活きる充実作。  
◎ペン字部総評 歌2首を上下2段、または縦4行と表現は様々。自然の流れの行書体、行間の響き合う作品が多かった。(富美子評)

漢字条幅部 師範 舟賀 恵美

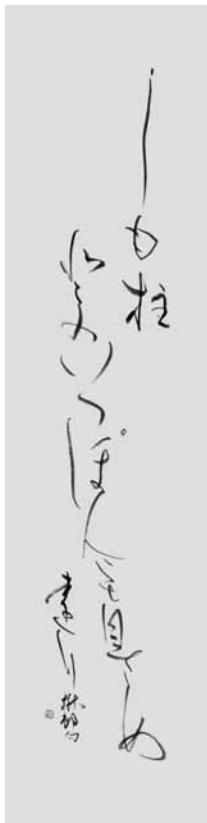
木簡隸を基調とし、現代的な瀟洒な表現が魅力的。筆の開閉が大胆で気迫の籠った充実の作。



◎漢字条幅部総評 今回は隸書作に目をひくものが多かった。古意のある落ち着きのある線の表現が作品の深まりを生む。(石雲評)

かな条幅部 師範 清水由紀子

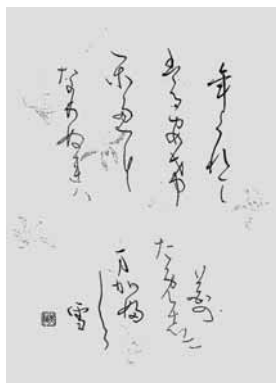
大胆な散らしで余白が光る。筆勢よくポップな表現で軽快なリズムが心に響く魅力的な作品。



◎かな条幅部総評 俳句は文字数が少ないため効果的な連綿が大事。「をり」の連綿が長すぎて残念な作品が散見された。(孝子評)

かな部 師範 名取 美袖

伸びやかなリズムが広がり、清々しい風情が心地よい。転折の効いた強い線が濃淡の墨色に映える。  
◎かな部総評 形はリズムによって自然に生まれるので、無理に模倣しようとするとは奇異になります。常に墨色・量に関心を。(洋子評)



前衛書部 特選 木暮 美紀

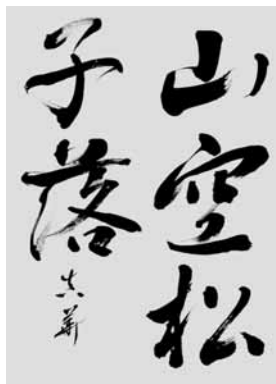
大胆な構成と表現力は実に圧倒的。常に新しい発想の書を追求する姿勢はすばらしい。



◎前衛書部総評 墨色は重要な表現要素の一つ。淡墨作品中に墨作りの工夫が見られた。(紅瑤評)

漢字部 師範 草刈 眞華

筆遣いが自然で線が柔かく美しい。温雅で気品が漂う作品。署名も良く本文との調和も見事です。  
◎漢字部総評 上級は、安定感のある行草作品が多かったが、落款の署名が本文と不調和な作は残念。署名に力量が表れます。(萬城評)



現代詩文書部 特選 永井 悦子

大きさの異なる文字群のバランスが絶妙。文字の大小・太細・墨量の変化により立体感を出表。



◎現代詩文書部総評 仕上げまでの枚数が少ないのではと思われる作品が多いと感じた。(邑峰評)

選評 長 島 僊 雨

(僊雨評)

特選 上 利 啓 子  
書き慣れた行草が美しく、流れも  
自然でまとまりのある作品。

謹賀新年  
昨年は大変お世話になりました  
今年もよろしくお礼申し上げます  
令和八年元旦  
上利英子

特選 利 守 由佳理  
漢字はしっかりとかなは流れがあり、めりはりのきいた作品。

謹賀新年  
昨年は大変お世話になりました  
今年もよろしくお願ひ申し上げます  
冬和八年元旦  
利守由佳理

(選外367名氏名略)

前衛書部(特選)

現代詩文書部(特選)



美有紫綾遠弘修千沙  
雪希千津雪平子晶莉  
有希子 大胆な構成、  
雪 筆の開閉を巧みに駆使魅力作

選評 倉林 紅 瑤

麗隆珠四香  
芳仙華峰燐  
よく考えられた大胆な余白  
筆意のつながりが佳い  
文字の内外の余白が絶妙  
動き大きく抱擁が広い  
運筆に気迫を感じる作

蒼藤彩天  
香象香翔  
自然な変化、流れあり  
文字の主従を考えぬく  
情景が目に浮かぶ作品  
力むことなく書き通す

苑真龍美喜  
柚理仙梢代  
人間味を感じる線の変化  
笑い声が聞こえてきそう  
深くねばりのある線表現  
大らかで美しい淡墨作品

雄有絢徳四  
一津水子夏  
行の不安定さに妙味あり  
文字が大らかに広がる  
言葉にも引き込まれる  
重量感ある文字が連なる

選評 大平 邑 峰

今月の

# 特別研究部優秀作品(特選)

選評 小竹石雲 千葉蒼玄 三浦鄭街 小島孝予

## 小品の部

臨書 (竹美)

八木橋 紀舟  
「升色紙」

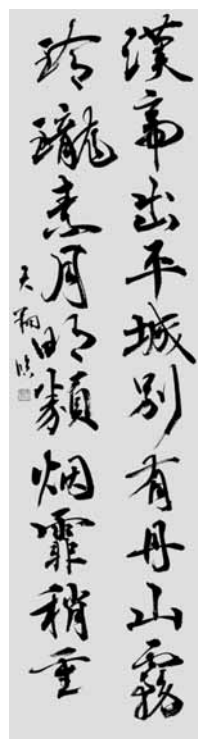


35×46cm

臨書 (八街)

相楽 天翔

「李嶠詩断簡」



135×35cm

前衛書 (多賀) 齋藤松苑 「心象」



137×35cm

◆字間行間を若干小ぶりにすることで紙面を明るくし、安定感のある作品に仕上げた。緩急の変化、無理のない運筆、完成度の高い作品である。

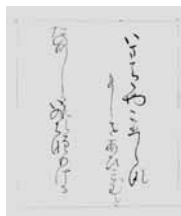
(鄭街評)

◆二つの回転が紙面を圧する。上部の重みと下部の二つの動きが大きな動きとなり響いている。最後のまとめの線は一考を要するが、若々しい作。

(蒼玄評)

齋藤松苑書

部分拡大



八木橋 紀舟臨

◆鋭い穂先を活かした線と、墨継ぎによる濃墨のコントラストが美しい。軽快でありながら優美で洗練された雅びな世界が広がった。

(孝予評)

現代詩文書 (四枝)

奥川麗流

「響りんりん音りんりん」



135×35cm

◆長鋒濃墨でテンポのいい詩情を、丁寧かつ着実な筆運びでうたいあげている。筆者が真摯に書作に立ち向かう姿勢が心に響き、故郷の郷愁をかりたてる。

(石雲評)

奥川麗流書

## 〈小品の部〉

創作の部(38点)

漢字 4点

かな 2点

現代 23点

篆刻 1点

前衛 8点

臨書の部(43点)

漢字 41点

かな 2点

総出品点数 81点

〈特選候補者〉

〈創作の部〉

「漢字」

四枝 及川 豊流

「かな」

伊呂 齋藤 杏邑

「現代詩」

もく 西川 藤家

宗苑 茂木 絢水

玄穹 千葉 陽子

青蓮 山崎 恵

京橋 田中 一葉

植松 梅田 紅雨

「前衛」

恵月 重村 恵月

華芳 庄司 紫千

「漢字」

華祥 王 良章

大雲 江本 興舟

華祥 加藤 雅芳

澄春 石橋 幽彩

もく 森田 藤谷

香苑 小川 香燐

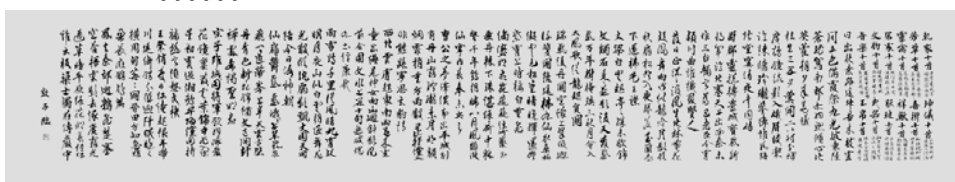
泰香 小曾 泰香

八街 十河 春景

青湖 北嶋 青湖

澄春 土屋 恵仙

臨書 (紅瑤) 相澤敦子「李嶠詩断簡」



相澤敦子臨

43×238cm

大作の部

現代詩文書

(八戸)

市川紫泉

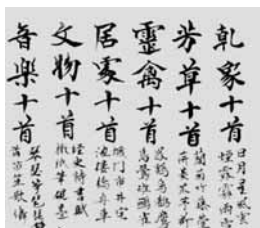
「石川不二子の歌」



180×60cm

◆2×8横に63行で表現した傑作である。上下左右の余白にも心を配り、リズム良く書き進めた。まさにアップルの作品である。(鄭街評)

部分拡大



前衛書

(花笠)

高橋清琳

「大寒」



180×60cm

高橋清琳書

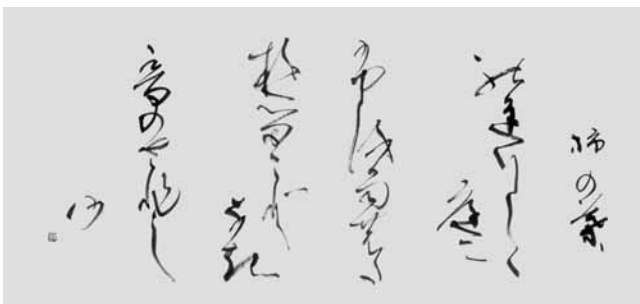
◆1行目の柱に寄りそうように、渴筆で2行目に情趣をもたせて、骨気ある直線が表現されている。左端の余白が実に美しい。(石雲評)

◆紙にとけ込むような墨色が印象的な作である。上部の飛んだ線に対して、下部はしっかりとした深さを表出している。(蒼玄評)

かな (創珠)

阿部珠翠

「柿の葉」



52×114cm

阿部珠翠書

◆行間の揺れが美しく紙面に響く。凍とした遅速の線条が作品全体を引き締め、緊張感あふれる作品となった。(孝子評)

大作の部

創作の部(35点)

漢字—4点

かな—3点

現代—6点

前衛—22点

臨書の部(16点)

漢字—15点

かな—1点

総出品点数  
51点

〈特選候補者〉

(創作の部)

大柳加藤 紫翠

大拙 成山

水茎 清水 蘭舟

翠苑 白井 真理

宗苑 佐々木 豊苑

前衛

誠和 石崎 甘雨

湯原 希風

湯原 希風

湯原 希風

湯原 希風

湯原 希風

湯原 希風

湯原 希風

湯原 希風

湯原 希風

湯原 希風

湯原 希風

湯原 希風

湯原 希風

漢字研究部  
(李嶠詩断簡)

選評 名 越 蒼 竹

今月のホープ作品



驚 山 美 梢

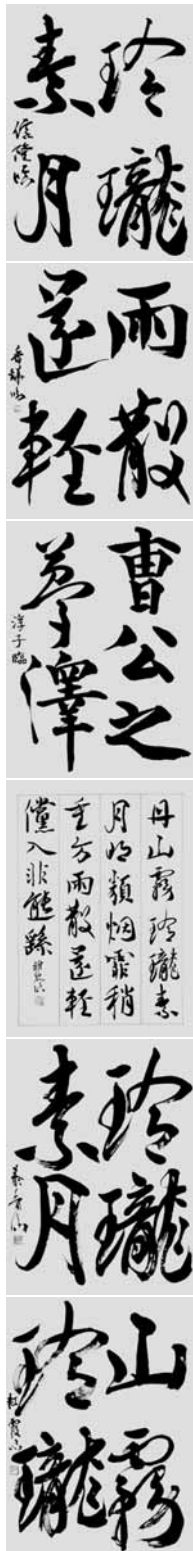
漢字研究部 特選 驚 山 美 梢

2字目の重心が下がり過ぎにも思われるが、原帖の観察がしっかりしていて用筆・運筆ともに優れた臨書である。特に運筆の抑揚表現は見事であり、太い線にも鈍重な感じが無い。他の模範とすべき臨書態度に敬服。

◎漢字研究部総評

いつも思うことですが、臨書では「見えたように書く」という考えは危険です。筆順や

運筆の方向、点画の省略など、不明確な場合は書の字典で調べて、原帖はどれに近いかを確認してから書くようにしましょう。私も確認を怠ったために字典に全くない書き方をしてしまった経験があります。今回は「別」「霧」「還」などに筆意のおかしいものがありました。筆・墨・紙の相性にも気を遣うと臨書で得られる効果が高まります。



紅 一 幸 恭 華 葉  
雨 恵 城 男 洋 子

紅 泰 雅 淳 香 信  
霞 香 泉 子 燁 隆

香 雪 綾 雅 玉 雄  
凜 篁 乃 芳 泉 子

美 谷 素 淑 錦  
潤 枝 恵 朴 子 笠



# 審査会員の部 結果発表 (出品数 漢字28点・かな11点)

選評 種谷 萬城・下谷 洋子

漢字秀逸作



佐藤 初香



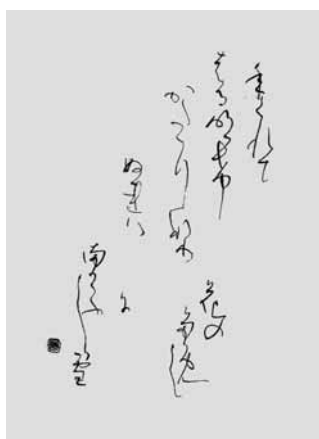
大内 熒軒



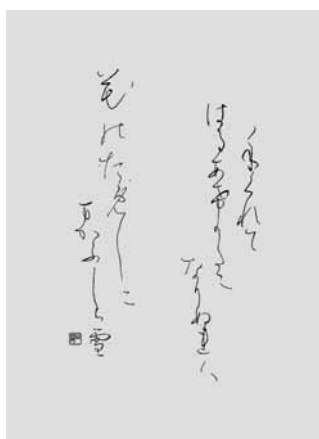
吉田 溪花



佐藤 光耀



齋藤 杏邑



工藤 山房

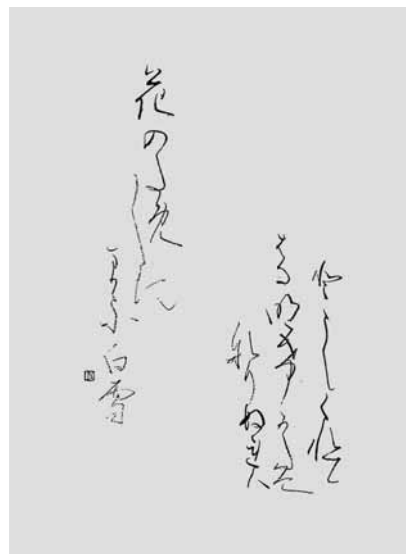
〈次点・50音順〉

新行内 芳蘭



ゆったりとしたリズムで引かれた、柔らかく、伸びやかな曲線が美しい連綿行草書。動きが大きく日頃の鍛練の充実ぶりが窺える作品で敬意を表します。(萬城評)

かな秀逸作



茂木 絢水

後半少々墨量不足だが、かなの理に基づき、バランスのよい作品。凜とした響きの高い線質での伸びやかさは得意技と思う。違う趣きも挑戦してほしい。(洋子評)

# 〔2026春季特別昇段級試験参考手本〕

◇春の特別昇段級試験の課題手本（創作作品）を掲載しました。参考にして下さい。  
（編集部）

漢字部

第二種

◇創作・行書

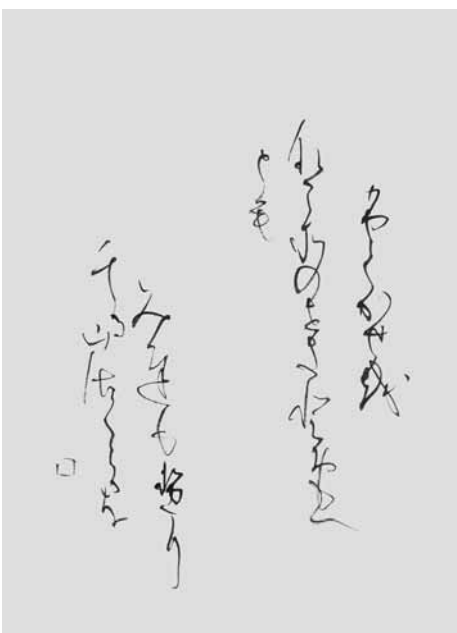
養怡之福（養怡の福）



（曹操）

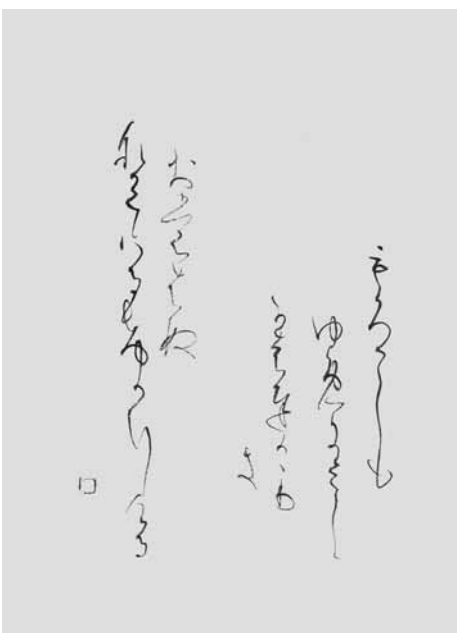
第三種 ◇創作（和歌）

吹く風をなこそその関と思へども道もせに散る山桜かな（源義家）  
よみ方 布久かせ越那こ所の世支登おもへと毛み遅も勢耳千る山佐久ら可奈



第二種 ◇創作（和歌）

もろこしも夢に見しかばちかきおもはぬ中ではるけかりける（兼云法師）  
よみ方 毛ろこしもゆ免尔三し可者運可、利支お兼者ぬ那可そ八る希可り介る



かな部

第一種 ◇創作 (楷書または行書)

〈楷書〉

詩寒半說雲

詩寒半說雲 (詩は寒にして半ば雲を説く)

(劉克莊)

〈行書〉

詩寒半說雲

詩寒半說雲 (詩は寒にして半ば雲を説く)

(劉克莊)

第二種 ◇創作・行書

少時嘆愁作底物老境方知世有愁

少時嘆愁作底物老境方知世有愁 (少き時嘆愁いは底物と作すと嘆びしも老境に方めて知りぬ世に愁い有るを)

(陸游)

第三種 ◇創作・楷書

忘盡世間愁故在和身忘却始應休

忘盡世間愁故在和身忘却始應休 (世間を忘れ尽くすとも愁いは故のごとく在り身と和に忘却して始めて底に休むべし)

(陸游)

かな条幅部

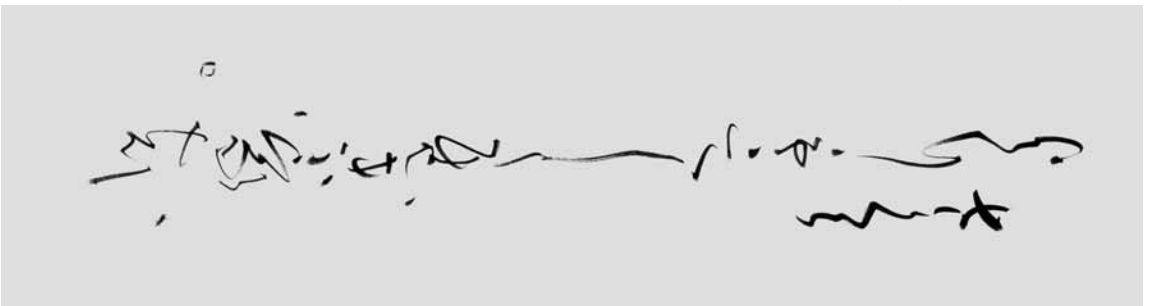
第一種 ◇ 創作 (俳句)



(椎本才麿)

おもひ出て物なつかしき柳かな  
よみ方 おもひい天く毛農なつ可しき柳可那

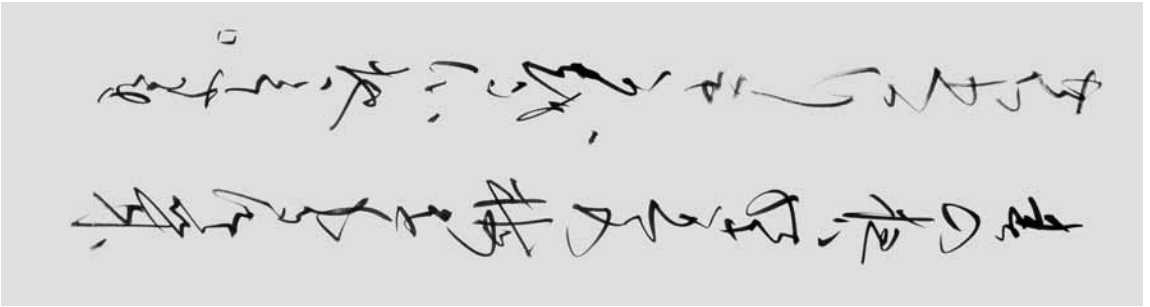
第二種 ◇ 創作 (俳句)



(与謝蕪村)

桜より桃にしたしき小家哉  
よみ方 さくらとまりまうし多恵き小家哉

第二種 ◇ 創作 (短歌)



(藤原俊成)

春の夜は軒端の梅をみる月の光も薫る心地こそあれ  
よみ方 春の夜入能き梅の梅をみる徒幾 農忌可り毛可趣る心地こそす理

※臨書作品は、1月号46～53ページの写真掲載の古典・古筆の中から、  
指定文字数を臨書して下さい。

※作品締め切りは4月15日(水)です。

(編集部)

## ペン字部

### ◇楷書

第一種 楷書 (1枚)  
第二種 楷書・行書 (計2枚)

日中書法交流史は大和時代の五世紀から始まる。百済を経由し、中国の文物や制度とともに漢字を受け入れたのがその出発点である。・書

### ◇行書

日中書法交流史は大和時代の五世紀から始まる。百済を経由し、中国の文物や制度とともに漢字を受け入れたのがその出発点である。・書

## 春季特別昇段級試験・和文解説

### ◎かな部第二種

もろこしも夢に見しかばちかかりきおもはぬ中ぞはるけかりける (兼芸法師)  
〔口訳〕遠い唐土の地でさえ夢の中では近いものだった。あなたと疎遠になった今では、その距離は唐土よりも隔たってしまった気がします。

〔解説〕古今集・巻15所収の恋の歌。この巻は恋愛の終末期を描いている。歌中の「中」は男女の仲。相思相愛の時期はとうに過ぎ去っていて、相手の変心やと気づいたとき、夢の世界と現実世界での距離感の違いを認識できた、という趣きの歌。冷静を装えば装うほど、未練が増していくのが人の心である。

### ◎かな部第三種

吹く風をなこそその関と思へども道もせに散る山桜かな (源義家)

〔口訳〕勿来の関は、その名の通り風に対して「来るな(吹くな)」と言いそうなのなのに、いざ到着してみると強い風が吹いていて、道をふさぐほどに山桜の花が盛んに散っていることだ。

〔解説〕勿来の関は奥羽三関のひとつ。作者は源頼朝の曾祖父で、奥羽を平定した武将。陸奥遠征時に見た風景を、ことば遊びを絡めて詠んだ名歌である。文武両道は武士の

日中書法交流史は大和時代の五世紀から始まる。百済を経由し、中国の文物や制度とともに漢字を受け入れたのがその出発点である。○○書

鑑であることを示した義家は、勅撰集にこの歌1首が採られている(千載集所収)。

### ◎かな条幅部第一種

おもひ出て物なつかしき柳かな (椎本才庵)

〔口訳〕ふと、柳の風情を思い出すと、懐かしさが蘇ってきたことだ。

〔解説〕作者は江戸時代中期の談林派出身の俳人。しかし、談林派の派手さや奇抜さはなく、平明で優しい調べの佳句である。

### ◎かな条幅部第二種(俳句)

桜より桃にしたいしき小家哉 (与謝蕪村)

〔口訳〕桜より桃がよく似合う小さな家だよ。〔解説〕中国では春の花と言えば桃となるが、日本では桜である。どちらも季節を満開にして咲き誇る。しかし、日本での桃のイメージはひっそりとしたもので、ささやかな幸せを象徴するものなのかもしれない。そんなことを思い起こさせる句である。

### ◎同(短歌)

春の夜は軒端の梅をもる月の光も薫る心地こそすれ (藤原俊成)

〔口訳〕庭の梅の木越しに月光が漏れているが、その光も薫ってくるような春の宵であるな。まるで月がその梅を見守っているような気もしてくるよ。

〔解説〕作者は定家の父。親子ともに大病を乗り越えて長命を保ち、歌道において「御子左家」の全盛を築いた。俊成は千載集の撰者となり、この歌を入集させたのだから自信作であることが分かる。ポイント「光も薫る」であるが、「もる(漏る)」に「守る」を掛けることで天体としての月にも焦点が当たり、壮大なイメージが広がる。同時に、小さきものへの優しいまなざしも感じ取れるのだ。技巧的な歌ではあるが、滑らかでリズムカルな調べがその技巧を隠している点も見逃すことはできない。

# 第57回 現代女流書展

同時開催＝現代女流書新進作家展

会 期 令和8年2月26日(木)～3月2日(月)  
午前10時30分～午後7時(午後7時30分閉場)  
ただし、最終日は午後5時30分まで(午後6時閉場)

会 場 日本橋高島屋S.C.本館 8階ホール  
東京都中央区日本橋2-4-1 (地下鉄日本橋駅下車)

入場料 一般 800円 大学・高校生 600円 中学生以下無料

主 催 毎日新聞社／後 援 (一財)毎日書道会

## 【書道芸術院関係出品者】

運営委員 かな部 下谷洋子

|       |       |       |       |
|-------|-------|-------|-------|
| 漢 字 部 | 安藤 華祥 | か な 部 | 勝山 初美 |
| 近代詩文部 | 金木 和子 | 近代詩文部 | 木村 笙園 |
| 近代詩文部 | 白石 和楓 | 大 字 部 | 稲垣 小燕 |
| 大 字 部 | 東福 青篁 | 前 衛 部 | 太田 蓮紅 |
| 前 衛 部 | 倉林 紅瑤 | 前 衛 部 | 平岡千香子 |
| 前 衛 部 | 柳町 祥香 |       |       |



## 第10回 小燕会書展 『今を生きる』

●会期 令和8年3月25日(水)  
～29日(日)  
10:00～17:00  
(最終日16時まで)

●会場 奈良県立万葉文化館  
〒634-0103  
奈良県高市郡明日香村飛鳥10番地  
TEL 0744-54-1850

●主催 小燕会 (主宰) 稲垣小燕

●後援 毎日新聞社  
奈良県  
明日香村  
(公財)書道芸術院

|             |             |             |             |             |      |                           |
|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|------|---------------------------|
| (789号～791号) | (786号～788号) | (783号～785号) | (780号～782号) | (777号～779号) | 号    | <b>〈予告〉令和8年度<br/>臨書課題</b> |
| 1月号～3月号     | 10月号～12月号   | 7月号～9月号     | 4月号～6月号     | 1月号～3月号     |      |                           |
| 書譜          | 孔子廟堂碑       | 礼器碑         | 蘭亭序         | 蘇慈墓誌銘       | 古典鑑賞 |                           |
| 十五番歌合       | 藍紙本万葉集      | 寛平御時后宮歌合    | 粘葉本和漢朗詠集    | 曼殊院本古今集     | 古筆鑑賞 |                           |

## 書道芸術 春季特別昇段級試験受験希望の方へ

- 1.「書道芸術」を購読されている個人、及び1ヶ月5部以下の団体(指導者の代表者申請も可)で昇段級試験受験希望の方は必ず期日までに葉書にて申し込みをしてください。(電話では受け付けておりません)
2. 団体の「書道芸術」を購読されていても、昇段級試験は個人で申請を希望する方も必ず期日までに葉書にて申し込みをしてください。

＊5部以下の団体の申請する際は、  
①の住所と②の名前は書類を受けとる代表者の方のみの記載で結構です。

郵便はがき

63円切手

1010031

東京都千代田区東神田1-16-7  
東神田プラザビル3階

公益財団法人 書道芸術院  
書道芸術編集部特別昇段級試験係  
御中

東京都千代田区〇〇〇1-1  
鈴木 一郎

書道芸術特別昇段級試験に申し込みます。

①住所 101-0011  
東京都千代田区〇〇〇1-1

②名前 鈴木 一郎

《葉書記入例》

＊申し込み締切  
△3月19日(木)△

## 【訂正】

書道芸術777（1月号）に令和8年(公財)書道芸術院年間行事予定表を掲載いたしましたが、秋季展会期が諸般の事情により変更となりました。

|         | 訂正後            | 777号掲載          |
|---------|----------------|-----------------|
| 陳 列     | 9月30日(水)       | 10月7日(水)        |
| 会 期     | 10月1日(木)～4日(日) | 10月8日(木)～11日(日) |
| 表彰式・研究会 | 10月3日(土)       | 10月10日(土)       |
| 撤 回     | 10月4日(日)       | 10月11日(日)       |

## 「認定証」発行

「書道芸術」の各部門別に、師範の資格を取得されている方に対して「認定証」を発行しております。

次の要領で、申請してください。

申請料 1部門 1万円

申請書式

はがき大の用紙に次のように記載し、申請料とともに現金書留でお送りください。

### 認定証申請書

申請者名(姓号)

1 郵便番号

2 住所・電話番号

3 支部・支部名

4 申請部門(漢・かな・漢字)

条幅・かな条幅・ペン字

5 師範資格取得年月日

認定証発行の年月日は師範資格取得年月日となります。

受付日より1ヵ月程度で認定証をお送りいたします。

## 書道芸術誌及び書道芸術学生版購読について

本誌の購読中止を希望される場合には必ず、書道芸術院事務所までご連絡ください。

連絡がないと本誌は3ヶ月間は、そのまま送られていくことになります。誌代が未納入の場合でも扱いは同じです。必ず中止の連絡をお願い致します。

また、中止によって誌代に残金が生じた場合は返金を致します。この場合、返金額が3000円に満たない時は同額分の切手をお送りしております。あわせてご了承ください。

よろしくお願いいたします。

## お願い事項

### ※「書道芸術」

競書出品するためには、バーコード出品券が必要です。

○新規登録(無料)

○再発行申請(有料…500円(分切手) 紛失・

破損・支部・氏号

変更

○登録内容変更(無

料) 住所・電話番

号変更・指導者名

変更

各種申請用紙は、事務所までご請求ください。

指定形式以外の申し込みは、お受けできません。また、バーコード出品券に訂正されても変更できませんので、必ず手続きをして下さい。

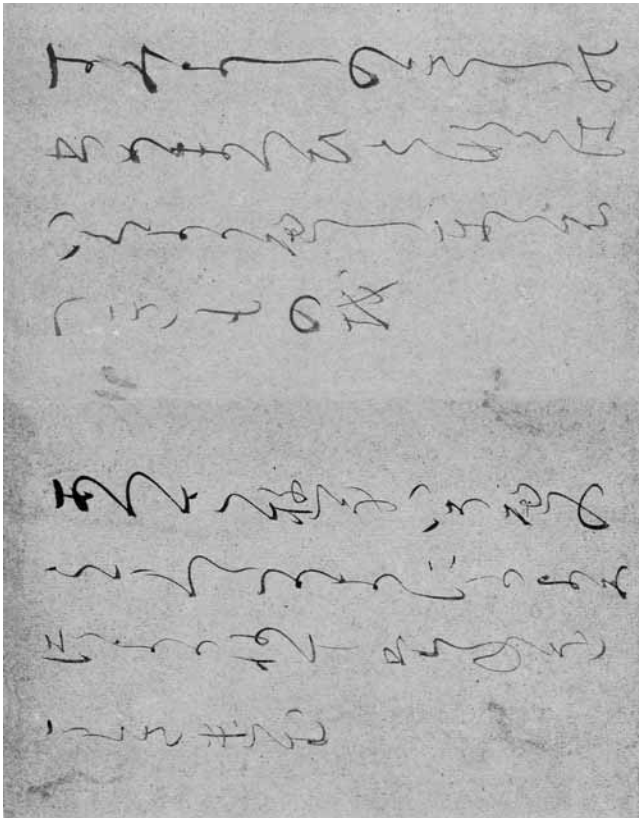
[illegible]

☆13ページ「古筆鑑賞」の原寸図版（半紙はタテ長にご使用下さい）

古筆鑑賞

264

曼殊院本古今集 (伝 藤原行成筆) ③



(掲載図版・60%に縮小)

〈よみ〉  
 すみよしのきしの  
 ひめまつひと  
 いくよかへしとふ  
 べきもの  
 あづさゆみいそべ  
 こまつたがよにか  
 まづかねてたねを  
 まきけむ

古典鑑賞

490

蘇慈墓誌銘 (隋 603年) ③



(掲載図版・70%に縮小)

堤封絶際。波瀾莫淡。天  
 經至極。人倫終始。優學  
 登朝。飛英擅美。鉤陳奕  
 奕。陞衛森森。戎章重綰。  
 侯服再廠。端儲率校。掌

# 競書出品規定

※規定部・自由部・研究部は、月別出品券を貼ったバーコード出品券を、作品の右下にヤマトのりで貼る。

※特別研究部は所定の出品券を、作品の右下にヤマトのりで貼る。

※半紙は縦使用に限る。

※落款(印のみ可)を入れる。

●出品資格 高校生以上

●月例競書作品出品の心得

1、締切日必着厳守

2、月別出品券を貼付していないバーコード出品券は認めない

3、月別出品券のコピーは不可

4、(一)初めて出品のときは「10級と書く(二)課題違反」「落款なし」等の違反

作品は審査対象外とし、違反作品として氏名を掲載します。

※▲印段級誤記入

※△印作品審査後着

\*段級欄に記入する数字は、

級位は算用数字1、2、3...

段位は漢数字 初、二、三...

で書いてください。

\*級位の方は、出品する月の本誌(最新号)で成績を調査確認の上、級を記入してください。確認できないときは、現在級を書き「未調査」と明記してください。

●規定部(自分の段・級で出品)

| 部門    | 字        | 漢      | な    | か    | 漢字条幅     | かな条幅 | ペン字  |
|-------|----------|--------|------|------|----------|------|------|
| 段級位   | 初段以上     | 秀級以下   | 初段以上 | 秀級以下 | 初段以上     | 10級  | 10級  |
| 用紙    | 半紙       | 半紙     | 半紙   | 半紙   | 半切       | 半切   | はがき  |
| 書体・内容 | 創作(書体自由) | 創作(楷書) | 創作   | 臨書   | 創作(書体自由) | 創作   | 書体自由 |

・かな、かな条幅部門は料紙使用可。

●研究部(掲載課題の臨書)

| 部門   | 用紙 | 内容            |
|------|----|---------------|
| 漢字研究 | 半紙 | 文字数自由         |
| かな研究 | 半紙 | 歌一首以上を書く、全文も可 |

・掲載部分以外の箇所は不可。  
・かな研究部門は料紙使用可。  
・料紙貼りつけ可。

●自由部(段、級によらないもの)

| 部門  | 用紙 | 内容   |
|-----|----|------|
| 前衛書 | 半紙 | 創作   |
| 現代書 | 半紙 | 創作   |
| 実用書 | 左記 | 書体自由 |

△実用書部門・出品規定▽

○用紙 半紙横 $\frac{1}{2}$  24.5×16.5cm、  
B5コピー用紙(26×18.1cm)も可。

○課題 掲載語句を書く。

○小筆、筆ペン、サインペンも可。

●特別研究部

・大作または小品のどちらかに1点出品する。

・詳細は出品票の掲載ページを参照のこと。

## ☆審査委員の部について

・「漢字部門初段以上」と「かな部門初段以上」に審査委員のみが出品できる部を設ける。

・バーコード出品券の段級欄に「審査会員」と記入する。

・通常の競書との重複出品は不可。

◎郵便物・清書・送金・一般事務等は

101-0031 東京都千代田区  
東神田1-16-7  
東神田プラザビル3階

公益財団法人 書道芸術院

電話(03)3862-1954  
FAX(03)3862-1957

ご連絡等は  
月曜日～金曜日 10時～16時の間に  
お願いいたします。(土・日・祝日は休み)

## 送料

1か月の購読部数が  
1部～9部までの1回の郵送料  
1部 79円  
2部 95円  
3部 103円  
4部 119円  
5部 135円  
6部 151円  
7部 167円  
8部 183円  
9部 199円  
10部以上は 送料免除

令和八年 一月二十五日印刷  
令和八年 二月 一日発行

定価 1部 七五〇円

編集兼 下谷 洋子  
発行人

データ処理 リンクス  
印刷 小沢写真印刷株式会社

発行所 公益財団法人 書道芸術院

〒101-0031 東京都千代田区東神田1-16-7  
電話(03)3862-1195 4  
東神田プラザビル3階

FAX(03)3862-1195 7  
振替 001501411350058  
http://www.lincs.co.jp/shogi/